

# 短期大学の情報の公表

平成29年5月



## 西日本短期大学教育研究活動等の情報公開について

本学は学校法人西日本短期大学が設置する短期大学であり、公的な教育期間として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、下記の情報を公表します。

(学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成22年6月15日公布、平成23年4月1日施行)に基づくもの)

### (1) 大学の教育研究上の目的に関すること。(第1号関係)

本学は教育基本法及び学校教育法に則って人格の育成と陶冶を旨とし、併せて法律、政治、社会福祉及び子どもの養護と教育並びに造園その他生活環境全般に亘って実際的な専門教育を施し、広く人類の文化に貢献しうる基盤を培養することを目的とする。

本学において授与する学位は短期大学士とし、学位に付記する専攻分野の名称および各学科の人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的は次のとおりとする。

学 科	学位に付記する 専攻分野の名称	教育研究上の目的
法 学 科	法 学 (Associate of Laws)	リーガルマインドを培うことで、法曹界、行政、企業等あらゆる分野で活躍する有能な人材の養成をする。
緑地環境学科	造園学 (Associate of Landscape Architecture)	自然との共生を図り、伝統的造園文化・技術を継承し、快適な生活環境を創造できる人材の養成をする。
社会福祉学科	社会福祉学 (Associate of Social Welfare)	介護福祉士として深い人間理解ができ、人間の尊厳や個人の人格を重視し他人を思いやる豊かな人間性を持ち、実践的能力を身につけた介護福祉士を養成する。また、介護福祉に関する専門的な知識・技術を習得させ、「求められる介護福祉像」を目指してその理念と社会的意義を理解できる力を養う。
保 育 学 科	幼児教育学 (Associate of Childhood Education)	保育・幼児教育に関する高度な専門知識や技術を習得させ、さらに幅広い教養と視野を持った人間性豊かな保育者の養成をする。
健康スポーツ コミュニケーション学科	スポーツ福祉学 (Associate of Sports and Welfare)	豊かな人間性を育て、全てのスポーツ活動を実践する人の役に立つ人材を養成することを目的としている。「元気の創造」、「たくましさの創造」ができる質の高いスポーツ指導者の養成が目標である。
メディア・プロモーション 学科	メディア法学 (Associate of Media Laws)	急速に進展する現代社会の情報化とグローバル化に対応した高水準の教養教育と実践的な専門教育を展開し、メディアに関する高度な職業意識と専門的な能力を兼ね備えた人材の養成をする。

## (2) 教育研究上の基本組織に関すること。(第2号関係)

本学は西日本短期大学と称し次の6学科を設置する。

- 法学科 (Department of Law)
- 緑地環境学科 (Department of Landscape Architecture)
- 社会福祉学科 (Department of Social Welfare)
- 保育学科 (Department of Childhood Education)
- 健康スポーツコミュニケーション学科 (Department of Health and Sports Communication)
- メディア・プロモーション学科 (Department of Media Promotion)

## (3) 教員組織, 教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。(第3号関係)

本学の教員組織, 教員の数は下記のとおりとする。

平成29年5月1日現在

学 科 名	専 任 教 員 数					設置基準で定める 専任教員数
	教授	准教授	講師	助教	助手	
法学科	1	4	1	1	0	4
緑地環境学科	3	3	2	0	0	7
社会福祉学科	3	1	1	1	1	4
保育学科	4	4	1	1	0	8
健康スポーツコミュニケーション学科	2	1	0	2	0	4
メディア・プロモーション学科	2	1	0	1	0	4

各教員が有する学位及び業績に関することは下記に記載しております。

- 法学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/hougaku/teacher.html>
- 緑地環境学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/ryokuchi/teacher.html>
- 社会福祉学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/fukushi/teacher.html>
- 保育学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/hoiku/teacher.html>
- 健康スポーツコミュニケーション学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/sports/teacher.html>
- メディア・プロモーション学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/gakka/media/teacher.html>

(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数, 収容定員及び在学する学生の数, 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。(第4号関係)

本学の入学者に関する受入方針は下記のとおりとする。

学 科 名	入学者に関する受入方針 (アドミッション・ポリシー)
法学科	<p>本学科では法律科目を軸としたカリキュラム編成となっている。そのため、少なくとも法に対して様々な観点から興味・関心あるいは疑問を持つ学生や社会人の入学を求めている。</p> <p>たとえば次のような人物像である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律の体系的知識を身につけ、公務員試験合格を目指す人</li> <li>・ 法律系資格 (行政書士・宅地建物取引士)、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す人</li> <li>・ 基礎的な法律知識を身につけ金融機関などの民間企業への就職を目指す人</li> <li>・ 社会人経験を生かして、さらなるスキルアップや再就職を目指す人</li> <li>・ 4年制大学への編入を目指す人</li> <li>・ 国際的なビジネスに携わるためのスキルを身に付けたい人。</li> </ul>
緑地環境学科	<p>一般常識や教養を身につけた幅広い人格を持った人材であるとともに、本学科の教育目標を「良質な緑地及び自然と共生した健全な生活環境を創造すること。そして、人類の存続と発展、人々の幸福に寄与すること。」と明快に認識し、その勉学・研究に情熱を傾注し、将来社会に貢献できると期待できる人材を求めている。</p>
社会福祉学科	<p>介護福祉専門職を目指す人として前向きで知的探究心に富んでいること。これまでの生活の中から、友人関係、家族関係、広く社会関係において、人に対して思いやりの心を持つことができる。また、ボランティア活動等を通して、人と関わる仕事の特徴を理解できていることが望ましい。</p> <p>具体的には次のような人の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉専門職として、積極的に課題に取り組む努力ができる人。</li> <li>2. 人や社会に関わりながら、自己成長したいと希望している人。</li> <li>3. 高齢者や障がい (児) 者の社会での在り方を人権擁護の視点に立って考えることができる人。</li> <li>4. 人の豊かな暮らしに関心があり、思いやりを持って他者と関わることができる人。</li> </ol>
保育学科	<p>本学科では、次のような人の入学を期待している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが好きで、保育者を目指して一生懸命努力する人。</li> <li>2. 人との触れ合いに関心を持つ人。</li> <li>3. 素直な気持ちを持ち子どもの視点を大切にする人。</li> <li>4. 子どもたちと寄り添いながら、ともに成長していくことができる人</li> <li>5. 能動的で意欲のある人。</li> </ol>

<p>健康スポーツ コミュニケーション学 科</p>	<p>1. 身体を動かすことが好きで、子どもや成人、障がい者のスポーツ、健康に関心を持ち、専門的に理解を深めたい人。 2. スポーツ、運動を通して共に支え合う社会の実現に役立つ担い手になりたいと考えている人。 3. 地域、スポーツイベントに関連するボランティア活動や課外活動に取り組む意欲のある人。 4. スポーツに関連する資格取得について積極的に取り組む人。</p>
<p>メディア・ プロモーション学科</p>	<p>本学科が求める学生は、自らが主体的にメディア文化の未来を開拓する意志と素質とを兼ね備えた人材である。メディアの名称を冠した学科は他にも多く存在しているが、それらの大半はテクノロジー重視のものである。本学科は明確にテクノロジーではなく、表現者の領域に自らの存在意義を限定し高水準でのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を有する学生を養成せんとするものである。したがって本学科が求める学生には、あらかじめ学科への素質的適合性の高さが要求される。</p>

本学の入学者の数、収容定員及び在学する学生数は下記のとおりである。

平成29年5月1日現在

学 科 名	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学者数 (人)	在籍者数 (人)
法学科(秋季入学含む)	70	140	57	90
緑地環境学科	70	140	46	82
社会福祉学科	60	120	41	76
保育学科	100	200	95	194
健康スポーツコミュニケーション学科	40	80	22	45
メディア・プロモーション学科	40	80	14	20
計	380	760	275	507

〈平成 28 年度 進路状況〉

卒業又は修了した者の数

学 科 名	学位授与者数 (人)	卒業者数 (人)
法学科(秋季入学含む)	31	31
緑地環境学科	28	28
社会福祉学科	41	41
保育学科	101	101
健康スポーツコミュニケーション学科	29	29
メディア・プロモーション学科	7	7
計	237	237

進学者数及び就職者数

平成29年5月1日現在

	就職希望者数	就職者数	編入者数	進学者数
法学科	26	25	0	1
緑地環境学科	26	26	1	0
社会福祉学科	35	33	1	2
保育学科	94	93	1	1
健康スポーツコミュニケーション学科	28	26	0	1
メディア・プロモーション学科	6	5	0	1
計	215	208	3	6

(5) 授業科目, 授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。(第5号関係)

本学の教育課程編成・実施の方針は下記のとおりとする。

学 科 名	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)
法学科	<p>本学科は、学生が「生きる力」を身につけ、確かな勤労観・職業観をもって自己の進路を開拓するためのキャリア教育を展開することを目標として、①公務員コース、②商経ビジネスコース、③編入学コースという3つの進路別コースと、④外国人留学生を対象とするアジアビジネスコースを設置し、各学生の希望進路に沿うカリキュラムを編成している。</p> <p>①は公務員への就職、②は民間企業への就職、③は四年制大学への編入学、④は国際的ビジネス社会で活躍するためのスキル習得を目指すコースであり、いずれのコースにおいても基本は憲法・民法等の主要法律科目となるが、さらにそれぞれのコースに対応させて、各種の支援科目であるキャリア支援A(編入学)・B(民間企業)・C(公務員)などの科目を開講している。また、特に公務員受験支援に重点を置き、その受験対策型科目として、公務員教養A～Eも設置している。</p>
緑地環境学科	<p>“緑”を人類の生命の源として位置づけ、“緑”の多面的・複合的な機能に着目して“環境”を“緑”の視点で捉えることで快適な生活環境を創造し、人間と自然との総合的な調和融合を目指す。</p> <p>1年次にはそれらの基礎を学びつつ、自らのキャリアデザインの方向を定め、2年次には、その応用へと展開しながら社会人への準備を進める。身近な庭園から公共造園、地域社会そして地球環境問題まで、社会・時代の要求に応えるカリキュラムを構成する。福浜・二丈の2つのキャンパスを活用して、中堅技術者・自営業者として必要な実践的教育を行う。</p>
社会福祉学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士としての深い専門知識と実践的な技能を修得する。</li> <li>2. 世代を超えたコミュニケーション能力を修得する。</li> <li>3. 多様な価値観を理解し、他者と共生する生き方を修得する。</li> <li>4. 介護福祉分野のプロとして活躍できる能力を修得する。</li> <li>5. 介護福祉士資格または介護福祉士国家試験受験資格が取得できる。</li> </ol>
保育学科	<p>本学科では、「思いやりの保育力」をキーワードに、カリキュラムを作成し、保育者の育成を行っている。人間には、ひとと出会い「ふれあう」ことでしか学べないことや、育めない力がある。「保育力」を高めるということは、「人間的魅力」も高まるということに他ならない。「思いやりの保育力」、それは「感謝の心」「謙虚な心」「和の心」の三つの心と、「学ぶ力」「専門的知力」「表現力」の三つの力から成り立つ、人間的魅力を備えた「こころ豊かな力」である。</p> <p>〈三つの学びのステージ〉</p> <p><u>総合学習</u> 多様な時代に即したエキスパートを育成。</p> <p>自然体験からコンピュータ演習まで幅広い授業を通して、多様なニーズ</p>

	<p>に対応できるスキルを身につけ、問題解決力を育む。</p> <p><u>感性教育</u> 「コト」・「モノ」づくりから「感性」を養う。 五感力を高め、音楽やダンス、演劇などで「コト」を創作したり、造形などの「モノ」づくりで感性を磨き、創造性豊かなところを育てる。</p> <p><u>現場主義</u> 豊富な体験学習で「プロ意識の芽」を育む。 実習による職場体験、地域との交流、海外研修などを通じ、多くの子どもたちや社会とふれあうことで、確かなプロ意識の芽を育てていく。</p>
<p>健康スポーツ コミュニケーション学科</p>	<p>本学科では、「全てのスポーツ活動を実践する人のために」という教育理念に基づき、人間性豊かな専門職業人を養成するため、以下のような方針に基づいて教育課程を編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的な知識と方法論を学ぶために2年次にコース科目(キッズスポーツ、フィットネストレーナー)を設置する。</li> <li>2. 1年次にはライフスキルとスポーツ実践力を獲得するため、教養科目、スポーツ実技科目を設置する。また、健康・スポーツ科学の基礎を学ぶための科目を設置する。</li> <li>3. キッズスポーツコースでは、「たくましさ」を創るジュニアスポーツの指導者を育成するために、キッズスポーツ、幼児体育、水泳コーチに関する理論と実践科目を設置する。</li> <li>4. フィットネストレーナーコースでは、「元気」を創るスポーツ指導者を育成するために、健康スポーツ、障害者スポーツに関する理論と実践科目を設置する。</li> <li>5. 身につけた知識やスキルを発展させるために学外実習を実施し、人間性と職業スキルを高める指導を行う。</li> </ol>
<p>メディア・ プロモーション学科</p>	<p>本学科では「メディア」を中核に構え、「国際、法律、政治、表現、地域」をキーワードとしたカリキュラムを編成する。つまり法学(法律学分野と政治学分野)を中心とした社会科学の専門科目を置き、実務科目については、メディア系の実務家が担当する内容を包含した科目を設け、多くの単位を修得させ、実践力と社会人基礎力を身につけさせる。</p> <p>本学科では学生が職業観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことが出来るよう「職業指導(キャリアガイダンス)」を本学科における教育活動の重要な位置づけとし、その充実を図る内容の教育課程となっている。具体的には実務科目の中に高度なコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成するための科目として「アナウンスメント」「映像演技」「ボイス・トレーニング」「パントマイム」「メディア表現演習」を配置し、さらに未来の良き社会人としての適格性を向上させるための科目として「メイク」「行儀作法」「パーソナル・コミュニケーション」を配置している。</p>



シラバス（授業計画）を参照のこと。

- 法学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017hougaku.pdf>
- 緑地環境学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017ryokuchi.pdf>
- 社会福祉学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017fukushi.pdf>
- 保育学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017hoiku.pdf>
- 健康スポーツコミュニケーション学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017sports.pdf>
- メディア・プロモーション学科  
<http://www.nishitan.ac.jp/joho/syllabus/2017media.pdf>

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。(第6号関係)

本学の学位授与の方針は下記のとおりとする。

学 科 名	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
法学科	<p>本学科の学位授与の方針は、下記の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カリキュラム・ポリシーに沿って定められた本学科の「卒業要件単位数(65 単位)」を充足していること。</li> <li>2. 本学の「建学の精神」及び本学科の「教育研究上の目的」を会得し、法学科短期大学士としてふさわしい法律的素養を修得していること。</li> <li>3. 本学卒業生としてふさわしい礼節と良識を修得していること。</li> </ol>
緑地環境学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学則第 21 条に定められている本学科の卒業要件単位数 64 単位以上を充足していること。</li> <li>2. 「環境」を学び、地域に貢献できる技術を習得していること。</li> <li>3. 伝統的で高度な「作庭技術」や「快適な生活環境を創造できる技術」を習得していること。</li> </ol>
社会福祉学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士としての専門的な知識を修得し、身につけることができる。</li> <li>2. 確かな視点に基づき、冷静に状況を判断することができる。</li> <li>3. 社会問題に関心を持ち、積極的に解決しようとする事ができる。</li> <li>4. 人間の尊厳性を踏まえながら、他者を思いやる事ができる。</li> <li>5. 介護福祉士としての専門的な技能を修得し、社会に活かすことができる。</li> </ol>
保育学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神を理解し広い視野で物事を捉え学ぶ力をつけていること。</li> <li>2. 社会人としての深い教養と保育者としての幅広い専門的知力を身につけていること。</li> <li>3. 他者とのコミュニケーション能力も含めた表現力を身につけていること。</li> <li>4. 思いやりの保育力を基に物事に対し感謝の心で接することができる。</li> </ol>

	<p>できること。</p> <p>5. 誠実で責任感が強く、何事にも謙虚な心で対応できること。</p> <p>6. 豊かな人格を備え、和の心を大切に子どもたちと接し、良識をわきまえた言動ができること。</p>
健康スポーツ コミュニケーション学科	<p>本学科では、所定の期間在学し、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。</p> <p>1. スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。</p> <p>2. スポーツ指導の実践力を有する。</p> <p>3. 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。</p> <p>4. 地域社会のウェルネスへの貢献</p>
メディア・ プロモーション学科	<p>学位の専攻分野については、本学の長い歴史ある法学(法律学分野と政治学分野)教育を中心とした社会科学の専門講義に加え、身体表現力の伸長に重点を置いた少人数制ワークショップ形式の演習科目、メディアの現場における企業実習科目を配置することにより、急速に進展する現代社会のメディア・イノベーションとグローバル化に対応した高水準の教養教育と実践的な専門教育を展開し、高い倫理観と優れた人格を備えた法律的なものの考え方ができる人材、ならびにメディアに関する高度な職業意識と専門的な能力を兼ね備えた人材の養成をするというメディア・プロモーション学科の目的から“メディア法学”とする。</p>

本学を卒業するために必要な授業科目及び単位数は、次のとおりとする。(学則第 21 条)

法学科(学位:法学)

授 業 科 目	卒業要件単位
必 修 科 目	19 単位
選 択 科 目 の 中 か ら	46 単位以上
計	65 単位以上

社会福祉学科(学位:社会福祉学)

授 業 科 目	卒業要件単位
必 修 科 目	19 単位
選 択 科 目 の 中 か ら	43 単位以上
計	62 単位以上

健康スポーツコミュニケーション学科(学位:スポーツ福祉学)

授 業 科 目	卒業要件単位
必 修 科 目	19 単位
選 択 科 目 の 中 か ら	43 単位以上
計	62 単位以上

緑地環境学科(学位:造園学)

授 業 科 目	卒業要件単位
必 修 科 目	27 単位
選 択 科 目 の 中 か ら	37 単位以上
計	64 単位以上

保育学科(学位:幼児教育学)

授 業 科 目	卒業要件単位
基礎科目の必修科目	4 単位
基礎科目の選択科目から	5 単位以上
専門科目の必修科目	6 単位
専門科目の選択科目から	47 単位以上
計	62 単位以上

メディア・プロモーション学科(学位:メディア法学)

授 業 科 目	卒業要件単位
基礎科目の中から	8 単位
専門科目の必修科目	4 単位
専門科目(実務科目含む)の選択科目から	50 単位以上
計	62 単位以上

(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。  
(第7号関係)

[本学の校地、施設について]

- 福浜キャンパス  
<http://www.nishitan.ac.jp/campus/fukuhama.html>
- 二丈キャンパス  
<http://www.nishitan.ac.jp/campus/nijo.html>
- キャンパス周辺  
<http://www.nishitan.ac.jp/campus/shuhen.html>
- 図書館  
<http://www.nishitan.ac.jp/toshokan/index.html>
- 生活環境  
<http://www.nishitan.ac.jp/campus/kankyo.html>
- 年間行事  
<http://www.nishitan.ac.jp/campus/calendar.html>

[本学施設の耐震化の状況（耐震化率）について]

平成 29 年 5 月 1 日現在

キャンパス名	建 築 物 数		計	耐震性を有する建築物	耐震化率
	昭和56年5月以前に建築されたもの	昭和56年5月以降に建築されたもの			
福浜キャンパス	1 ※	4	5	5	100%
二丈キャンパス	0	4	4	4	100%

※ 耐震補強済み

(8) 授業料, 入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。(第8号関係)

1年次学納金

平成29年度入学生

法学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	20,000	20,000	40,000
	計	645,000	445,000	1,090,000

保育学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
	計	675,000	475,000	1,150,000

緑地環境学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	87,000	87,000	174,000
	施設設備資金	130,000	130,000	260,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
計	732,000	532,000	1,264,000	

健康スポーツコミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
計	655,000	455,000	1,110,000	

社会福祉学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
計	675,000	475,000	1,150,000	

メディア・コミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	100,000	100,000	200,000
計	725,000	525,000	1,250,000	

2年次学納金

平成29年度入学生

法学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	20,000	20,000	40,000
計	445,000	445,000	890,000	

保育学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
計	475,000	475,000	950,000	

緑地環境学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	87,000	87,000	174,000
	施設設備資金	130,000	130,000	260,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
計	532,000	532,000	1,064,000	

健康スポーツコミュニケーション学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
計	455,000	455,000	910,000	

社会福祉学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
計	475,000	475,000	950,000	

メディア・コミュニケーション学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	100,000	100,000	200,000
計	525,000	525,000	1,050,000	

2年次に編入の場合の学納金

法学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	20,000	20,000	40,000
	計	645,000	445,000	1,090,000

健康スポーツコミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	655,000	455,000	1,110,000

緑地環境学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	87,000	87,000	174,000
	施設設備資金	130,000	130,000	260,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	732,000	532,000	1,264,000

メディア・コミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	入 学 金	200,000	0	200,000
	授 業 料	285,000	285,000	570,000
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	100,000	100,000	200,000
	計	725,000	525,000	1,250,000

長期履修生の学納金

平成29年度入学生

共通	入学金(入学時)	200,000
	授業料(各年次)	1単位 13,000

1年次

法学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	20,000	20,000	40,000
	計	160,000	160,000	320,000

2年次

法学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	20,000	20,000	40,000
	計	160,000	160,000	320,000

1年次

緑地環境学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	87,000	87,000	174,000
	施設設備資金	130,000	130,000	260,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	247,000	247,000	494,000

2年次

緑地環境学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	87,000	87,000	174,000
	施設設備資金	130,000	130,000	260,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	247,000	247,000	494,000

1年次

社会福祉学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
	計	190,000	190,000	380,000

2年次

社会福祉学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
	計	190,000	190,000	380,000

1年次

保育学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
	計	190,000	190,000	380,000

2年次

保育学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	50,000	50,000	100,000
	計	190,000	190,000	380,000

1年次

健康スポーツコミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	170,000	170,000	340,000

2年次

健康スポーツコミュニケーション学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	30,000	30,000	60,000
	計	170,000	170,000	340,000

1年次

メディア・コミュニケーション学科	区 分	入学時	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	100,000	100,000	200,000
	計	240,000	240,000	480,000

2年次

メディア・コミュニケーション学科	区 分	前 期	後 期	年 額
	教育充実費	25,000	25,000	50,000
	施設設備資金	115,000	115,000	230,000
	実験実習料	100,000	100,000	200,000
	計	240,000	240,000	480,000

(9) 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。(第9号関係)

● **学生の修学の支援について**

〔履修ガイダンス〕

学生の修学の支援として学年開始時のオリエンテーションにて学生便覧、シラバスを基に履修指導を行っている。学生は個別時間割作成後、学務課へ提出する。学務課では提出された個別の時間割が資格取得の要件を満たしているか、卒業要件を満たしているか等に重点を置きチェックを行い、指導が必要な学生には個別に対応をし、実際に講義を受けた後に履修科目を変更できるよう設けている履修変更期間に変更を行っている。

〔クラス、ゼミ制〕

クラス、ゼミ制を導入しており個別に指導が必要な学生に対し教員が個別指導を行っている。

〔コンピュータ教室の開放〕

コンピュータ操作技術の支援としてパソコン教室の開放を行っている。本学の学生であれば自由に使用出来、OA準備室に教員を配置しサポートを行っている。

MOSなどの資格取得を希望する学生は個別指導を行い、毎年多くの学生が資格取得をしている。

〔外国人留学生支援〕

現在各国からの留学生が多いため外国人職員を配置し、講義から日常生活に至るまで異国の地で不安が起きても解決出来るように支援をしている。また日本人学生と同様の講義はもとより留学生科目として日本語科目、日本事情に関する科目を特別に設け不足する語学力の支援を行っている。

● **進路選択支援について**

進路指導室を設け、民間企業をはじめ各種施設、団体等の求人情報、パンフレットを開架し就職の斡旋、開拓、履歴書の記入等の支援を行っている。

また、学生カルテシステムの導入により、学生情報を共有することで教職員の一貫した進路指導を強化している。

● **心身の健康等に関する支援**

保健室に養護教諭を1名配置し、体調不良の場合など対応できるようにしている。学校保健法、結核予防法に基づき定期健康診断を実施し全学生に結果を配布し必要な学生には学校医への相談及び医療機関の受診等の指導を行っている。学内での不慮のケガ、事故に対しては「学生教育研究傷害保険」「学研災付帯賠償責任保険」に全学生加入させている。

また、身体だけではなく、心の問題を抱える学生のサポートとして『学生相談室』を設置し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学校外の専門家として週に1回臨床心理士の配置を行っている。